

<メディアウオッチ> 第二次安倍内閣誕生のご祝儀記事はいろいろ

上出 義樹

タカ派色を薄め「安全運転」でスタート

主要各紙の12月27日付朝刊は、衆院選での自民党圧勝で誕生した第二次安倍内閣が、タカ派色を薄め、「安全運転」重視で船出したことを報じている。

同日付の朝日朝刊などによると、安倍晋三首相は世論の反発を受けそうな重要法案は次の参議院選まで封印し、経済対策などを前面に出した舵取りをする意向という。いずれ、原発の再稼働・新設や集団自衛権容認、改憲などのきな臭い問題が浮上してくるのはミエミエである。

新内閣の体質を危惧する朝日なども無難な紙面作り

ところが、自公政権の応援団のような紙面作りをする読売や産経ばかりでなく、個別の記事では安倍内閣の危険な体質を指摘する朝日や毎日までも、1面や社説はバランスある無難な見出しが付いていた。例えば社説のタイトルは、朝日が「再登板の期待と不安」、毎日が「『自民の変化』示す政治を」だった。型通りのご祝儀紙面である。

東京新聞は1面で「原発維持シフト内閣」と明快に指摘

その点、東京新聞は1面に「原発維持シフト鮮明 第2次安倍内閣発足」の記事、社会面では「教育再生『危うさ含み』」の見出しで学校現場の「自己規制」の動きを伝えるなど、新内閣の本質を切り取る明快な紙面作りをしている。

ご祝儀記事ではジャーリズムの名が泣く。

(かみで・よしき) 北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士課程(新聞学専攻)在学中。